



ひのきしんスクールガイドブック

GUIDE to "HINOKISHIN school"

contents

- 6 ひのきしんのかたち **緑化**
「緑化を通して、地域ににをいがけ」
- 10 ひのきしんのかたち **ケア**
「スキルを身につけることの大切さ」
- 14 ひのきしんのかたち **図書修理**
「一人のやる気が、大きな力に」
- 18 講座紹介
- 24 あなたの教区でも。「栃木教区」
- 26 そのほかの活動紹介





ひのきしんって何だろう？

「ひのきしん」ということばから、皆さんはどんなことを思い浮かべますか？

全教一斉ひのきしんデーでは、みんなで草刈りやゴミ拾いに汗を流しますね。こどもおぢばがえりで土持ちをしたことを思い出す人もあるでしょう。また、教会や支部で、「ちょっとひのきしんをお願いします」と言われる場面もあるかもしれません。

あなたのひのきしん、進化させませんか。

でも、ひのきしんとは、このような限られた時間、限られた場所でするものだけなのでしょうか？

親神様は一日 24 時間、一年 365 日、休むことなくご守護くださっています。我々のひのきしんも、一時の行いではなく、特別な時だけするものでもありません。願わくは、日常生活そのもの、生き方そのものが、ひのきしんでありたいものです。

ひのきしんとは、 私たちの生き方そのものなのです

人はたすけ合うことで陽気ぐらしができるように創^{つく}られています。私たちの感謝に満ちた生き方が、人の喜びにつながれば、お互いにもっと幸せを感じることができるはずです。

私たちの周りに目を向けると、うつ病・ひきこもり・発達障害・認知症など、誰にも相談できずに不安を覚え、悩み苦しんでいる方が大勢おられます。

こうした方々の傍^{かたわ}らに立って手を差し伸べたいと思っている人も多いはずです。





でも、実際にその当事者や家族に出会うと、何もできない自分を情けなく思うこともあるでしょう。また時には、対応を誤ったために、せっかくのこちらの善意が、^{あだ}仇になることもありうるのです。

広げよう知識、 高めようひのきしんの意識

現代社会が抱える諸問題に悩み苦しむ人
たちへの支援の方法を学び、人だすけの心
を磨き、お互いのひのきしんの意識を高め
ることは、あなたのひのきしんの形を広げ
ます。

新しいひのきしんのカタチ、探してみませんか？

CASE 1
緑化



緑化を通して、地域に在りてをいがいけ

桜の下で「陽気ぐらしのつどい」

兵庫県加古川市に、左半身に障害を抱える74歳の教会長がいます。愛乃里分教会長の西川善雄さんです。

西川さんは、昭和58年11月、47歳の時、脳内出血で倒れ、左半身不随になりました。車イスで言葉も不自由ななか、何とか農協の組合長としての仕事を続けていた矢先の昭和60年9月、今度は2度目の脳内出血を起こしたのです。

2度に及ぶ脳内出血にこもる親神様の思召を思案するなか、「布教所から教会へという長年の夢を早く実現せよ」との親心と悟り、当時布教所長だった母親を会長として、教祖百年祭の旬に教会名称の理を頂戴しました。

その後、半身不随で車イス生活をしているなか、「こんな自分にも何かできることはな

いか」との思いで、平成元年2月、ひのきしんスクール『花と緑を育てる課程』（現・講座『緑化ひのきしん』）を受講しました。

ところが、講座の内容が、植樹や樹木の剪定など、車イス生活者では難しいものであったため、修了の際、講師に、「こんな身体でも何かできることはありますか？」と、質問をしたそうです。すると講師から、「桜の木を教会の外に向けて植えてはいかがですか。地域の方々にも喜んでいただけ、良いに在りてになりますよ」とのアドバイスを受けました。

西川さんは、神殿ふしん後で経済的にも大変ななかでしたが、早速50本の桜の苗木を植樹。そして平成3年4月、母親の後を継いで会長に就任した奉告祭の当日、教会の桜が

初めて花を咲かせたそうです。

その後、「地域に開かれた教会にしたい」との思いから、翌年より桜の花見の時期に合わせて、毎年近所の方々を招いて『陽気ぐらし講座』を開催。講演、演芸の後は、教会の庭で、弁当・たこ焼・甘酒などをふるまい、地域の方々にも大変喜ばれています。

最近では、加古川市長さんをはじめ、多い時には 300 名もの参加者がある、地域の恒例行事になっています。

毎年の『陽気ぐらし講座』も賑やかになってきましたが、西川さんの思いはさらに大きく、将来は教会の庭を花でいっぱいの“陽気ガーデン”にして、教会に足を踏み入れたら、誰もが心嬉しくなる場所を作りたいと夢を膨らませています。

voice

参加者 60 代女性

●天理教の教会でいつも良い話を聞かせていただきありがとうございます。早速帰ったら今日のお話を実行したいと思います。今日はお天気も良かったので最高です。

voice

愛乃里分教会長 西川善雄さん

●毎年大勢の人に参加していただいて本当にありがとうございます。やっぱりひのきしんスクールのお蔭です。しかし私が最初に、ひのきしんスクールの『花と緑を育てる課程』を受講した時は、「天理教は、教理を教えなくて、なんでこんな面白い講座を作ったんだろう」と思ったのですよ。でも、今になって本当に感謝しています。この桜は、私の命だと思うのです。この桜のお蔭で、大勢の地域の人たちが教会に来てくださり、喜んで帰ってくださる。

今後は、この教会をたくさんの人が集まり楽しく過ごせる“陽気ガーデン”にしたいのです。いくら広くても「綺麗だな」だけではだめだと思うのです。たとえ小さくても、心にも花を咲かせることのできる、陽気な心になれる“陽気ガーデン”を目指して、まだまだ頑張りたいと思います。

voice

参加者 20 代男性

●初めて参加しましたが、すごく良かったです。桜の下で食べたお弁当やたこ焼きがとてもおいしかったです。お話もよくわかりました。感動しました。



スキルを身につけることの大切さ

ハート・ママの会を通して

上級への勤めや信者さんの丹精に加えて、地域の医療機関でのボランティアをはじめ、さまざまな障害に悩む子供やその親たちへのおたすけに、積極的に取り組んでいる女性が大阪にいます。泉明分教会長夫人阪口由美子^{せんめい さかぐち ゆみ こ}さんです。

阪口さんが障害に悩む人たちへのおたすけに関わるようになったのは、10数年前の、ある親子との出会いがきっかけでした。自閉症の子供をもつお母さんから、「小学校入学にあたり、普通入学ができるよう学校に掛け合って欲しい」との依頼を受けたのです。お世話の甲斐あって、うまく入学はできたのですが、阪口さんはその時、「お母さんは喜んでくれているけれど、これから本当のおたすけが始まる。でも私は『自閉症』と言われても、どんな病気で、どんな対応が必要なのか

など何も知らない。このままでは、おたすけもできないんじゃないか」と思ったそうです。そのことがきっかけで、ひのきしんスクールの精神障害に関する課程を受講。すると、心の眼が開いたかのように、次々にうつ病や不登校に悩む人々との出会いがあり、それから約10年間にわたって精神障害についてのさまざまな課程を受講しました。

ハート・ママの会

ここ数年、発達障害という言葉が広く使われるようになりましたが、まだまだよく理解されていないのが現状です。

ひのきしんスクールでは、平成21年2月に『発達障害』についてのシンポジウムを開催。それを機に『キッズネット天理』という、子供のさまざまな身上や事情を抱える教会

CASE 2
ケア



長・ようぼくのネットワークを発足させましたが、阪口さんはその立ち上げから参加しています。

また、平成21年7月、阪口さんは、『ハート・ママの会』という、発達障害の理解を深める親の会を立ち上げました。これは、主に教内を対象にしたもので、親同士の交流・情報交換・心のリフレッシュを通して、今与えられている姿を心から喜べることを目指したものです。現在は月1回、大阪にある2つの教会を隔月に会場として開催しています。

「発達障害などについて、正しく理解もせずに、ともすると患っている人に自分の思いばかりを伝えてしまいがちな私たちです。身体が続く限りこの活動を充実させて、もっともっと勉強していける場にしたい」と抱負を語っています。

阪口さんは、今もひのきしんスクールや行政が開催するさまざまな講習会に積極的に参加し、おたすけのための正しい知識・技術の習得を心掛けています。

voice

「ハート・ママの会」に出会って

りせい
理成分教会長夫人 森川美咲さん もりかわみさき

●6歳になる次女は、3歳半で知的障害、5歳で広汎性発達障害、自閉傾向と診断されました。姉と比べるとすべての発育が遅かったのですが、ゆっくり成長する子だと思っていたので、診断されて大変ショックでした。

私たちには、なぜ親神様がこのような子をお与えになったのか、わかりませんでした。

そんな時、阪口由美子さんに出会ったのです。阪口さんが、うちの子のような発達障害のある子供たちに関われ、そのお母さんの心のケアをされているお話を聞き、「私のつらさを聞いてもらえるのはこの方以外にない」と思い、声をかけました。

そして、後々のおたすけのために今があることを教えてもらい、やっとこの子の存在の意味がわかりました。私の周りでは発達障害を正しく理解している人が、とても少ないことに驚きました。このような社会で、子供たちが生活していくことを思うと、とても不安でした。お母さんたちの理解を深め、悩みを相談し、息抜きのできる『ハート・ママの会』の立ち上げに、私も賛同し、自教会を会場に使っていただくことになりました。

日々の大変さの中で、まだまだ落ち込む日もありますが、頑張れるようになったのは、阪口さんと『ハート・ママの会』のお蔭だと思います。

娘を通した出会いや喜びすべてが、親神様がお与え下さったものだと思うと、感謝の気持ちでいっぱいです。これからは人の心に目を向けた、本当の意味でのおたすけを実践するのが、私の役目だと思っています。



一人のやる気が、大きな力に

小学校での図書修理

高知教区に、小学校の図書修理を通して地域への貢献をしている香美支部があります。
香美市・香南市・南国市の3市で、現在までに11校の小学校で図書修理ひのきしんを実施してきました。

赤岡分教会長夫人西富恵さんが、子供の小学校入学を機に、地域への繋がりを求めて、小学校の図書室の本を20～30冊ずつ持ち帰り、修理をして届けるということを数年続けたことがきっかけです。

富恵さんは、その後小学校の図書室で修理をする姿を子供たちに見てもらい、本を大切にすることを感じてもらおうと思いつき、学校側に提案。学校の了解を得て、図書室での修理が始まりました。

この富恵さんの地道な活動を耳にした支部

の教友が、共にひのきしんすることを申し出ました。

この機に、富恵さんは本格的な技術をしっかり習得したいとの思いから、昭和62年8月に、ひのきしんスクール『図書修理課程』を受講。その後、支部の皆さんに図書修理の手ほどきをしながら、支部活動へと発展させました。

訪問する小学校の数も少しずつ増やそうと活動を進めてきました。しかし、担当の先生が替わると断られることなどもあり、学校や地域の信用を得るには、何度も足を運び、図書修理の目的や実績を説明するなど、地道な努力が必要でした。

20年以上の活動が信用を得て、今では地区の香南更生保護女性会の人たちも加わり、

CASE 3
図書修理



毎回平均7～8名、多い時には10名を超える参加者になりました。月1回のペースで図書修理を行い、多くの本に新たな命を吹き込んでいます。休み時間には子供たちが図書室を訪れ、作業する姿を見たり、時には手伝いをしてくれたりすることもあります。

「この本も、修理してください」とリクエストがあり、物を大切にする心は確実に子供たちに伝わっているようです。

平成21年6月、長年の交渉の末、やっと図書修理の了解がとれた小学校に訪問することが決まり、誰もが楽しみしていました。その矢先、富恵さんが交通事故で出直されたのです。富恵さんと一緒に活動をしてきた、夫であり教会長の一夫さんの悲しみはとても大きなものでした。しかし、支部の教友の「奥さんのためにも続けようよ！」との言葉に励まされ、6月も休まず開催。その後も毎月、図書修理ひのきしんは続けられています。

富恵さん一人から始まった図書修理が、長い歳月を経て、地域貢献へと発展しています。

voice

こうなんのいち

香南市立野市小学校長 田中紀子先生

●毎年来てくださり、みなさんが修理をしてくださっているところを見て、子供たちもきちんと本を使わなければならないという気持ちになっています。また、みなさんとお話することで仲良しになり、とても良いふれあいの時間となっていると思います。本当にありがたく感謝しております。





ひのきしんの意義と実践

Hinokishin



「ひのきしんって何？」

■親神様のご守護への感謝の心を表す日々の態度です。このひのきしんの意義について、さまざまな角度から学び、話し合います。また、地域の実情に合ったきめ細やかな対応や、具体例を通して、ひのきしんの在り方を求めます。

人づきあいの基本 — 聴くこと・伝えること —

Communication

■人づきあいは生活の中で重要な要素です。しかし、人の話を聞くことや自分の思いを伝えることは意外と難しいものです。この講座では、自分自身をより深く理解することを出発点として、自分と相手が認め合い、支え合う人間関係づくりのヒントを学びます。





Speech

話し方

VOICE

- ・以前から講話をすることが苦手だったが、コツをつかんで話すのが楽しくなった。
- ・話し方の技術はもちろん大切だが、真心を込めて話すことがより重要だということを学んだ。

■話すときの姿勢や間の取り方、わかりやすい話をするための工夫など、「話し方・講話の基礎」を学びます。さらに講師の指導を受けながら講話の演習を通して、お互いに評価し合い、真心を込めてお話を取り次げることを目指します。

Counseling

カウンセリング — 聴くことの大切さ —

■カウンセリングの基礎的な知識を学び、「傾聴」や「自己理解」の力を高め、悩む人への理解を深めて、おたすけの場におけるカウンセリング技術の有効な使い方について学びます。



VOICE

- ・自分自身を理解するヒントを頂くことができました。
- ・カウンセリングとおたすけの接点についてのお話も聞けて良かった。



Psychiatry

精神の疾患と障害

VOICE

- ・今まで励ますことばかり考えてきましたが、うつ病の人への声のかけ方など勉強になりました。今後は無理せず共に歩んでいきたいと思います。
- ・医療、おたすけの両面からのお話や体験談は、これからの大きな糧になった。

■精神の疾患や障害について精神科医や福祉の専門家から正しい知識と最新の情報を得て、偏見や誤解を無くし、信仰者として、地域で互いにたすけ合って暮らせるよう学びます。



Supporting the family

家族への支援

VOICE

■親神様の深い思召で結ばれている家族。その中で見せられる身上や事情は親神様からのお手引きです。その節をどのように活かして生きていけばよいのかを考え、おたすけに役立てます。

- ・子供に事情が現れたとき、子供に問題がある、親に責任があるなど思いがちでしたが、家族のつながりが大切だと気づきました。
- ・親子、夫婦の関係の大切さ、根の大切さ、陰のつながりの大切さを教えてもらった。

VOICE

・認知症のメカニズムのお話が良くわかった。
相手の身になって見守っていこうと思った。

・医療の立場からのお話は初めてだったので、
理解が深まったように思う。



Supporting the elderly

高齢者支援

■高齢者やその家族を支えるために必要な知識と技術を学びます。

医療・福祉の専門家による講義や、実際に高齢者支援に取り組んでいる教会活動の事例などを通して、何ができるのかを考えます。また、実習や演習では要援護高齢者の具体的なケアの方法を学びます。

Welfare

障害への理解と支援

■障害がある人を支えるうえで、医療や福祉、教育の専門家による具体的な知識と支援に関する手法を学ぶとともに、家族をはじめとする周囲の適切な関わり方について学びます。



VOICE

・新聞や本を読んで理解するのと違い、先生方から直接講義を受けてよくわかった。

・専門的な講義を受けることができ、身近にある発達障害について少し理解を深めることができました。

事情だすけ

Affairs



VOICE

■多重債務、依存症など、現代の事情だすけは正しい知識を学び、それぞれの事情に対する偏見を取り除くことから始まります。専門家から正しい知識を学び、実際のおたすけ現場の経験や、当事者の思いを聞くとともに、受講者と経験豊富な講師との学びあいの中で、事情のおたすけについて考えます。

- ・貸す方、借りる方の両方の責任。特に貸す側の現状を聞き大変驚いた。
- ・安易に借金をなくすだけの手助けでは、悪循環に陥ってしまうことなどのお話を聞いて本当に怖いと思った。

図書修理

Books repair



VOICE

■天理図書館製本室の指導を受けながら、傷んだ本の修理法を学び、ものを大切にする心を養います。

- ・知らないことばかりだったが、丁寧に指導していただき、いろいろな方法が学べてよかった。
- ・本の大切さ、ものを大切にするのを改めて考えさせられた。今後は学んだことを活かして図書修理ひのきしんをしたい。

この講座の他に、復習を兼ねた「図書修理一日研修会」を開催しています。また、不定期で図書修理実習室を開放しています。

緑化ひのきしん

Gardening

VOICE

■お道の自然観や動植物の生態系、生き物が果たしている役割や働きを通して、親神様のふところ住まいを学びます。

また、経験豊富な専門家から、ガーデニングや樹木の剪定など、緑化ひのきしんに必要な技術を学びます。

・実際にやってみると難しかったがとても勉強になった。

・花や緑には関心があったが、この世すべてが親神様のからだであるということを、改めて心におさめることができた。



シンポジウム

Symposium

■ひのきしんスクールでは、現代社会におけるさまざまな問題をテーマに取り上げ、講座の他にシンポジウムや講演会を定期的を開催しています。

＝過去の開催テーマ＝

「自死遺児遺族を支えるグリーフケア ～これから生きるために～」

「カルト事情が語りかけるもの」

「離婚 ～夫婦・家族のおたすけ～」

「『自然災害』から見えてきた人や地域とのつながり」 etc...



あなたの教区でも。

『ひのきしんスクール』は、地域に根ざしたひのきしん活動を目指し、地方での開催も行っています。

●現代社会では、さまざまな問題に悩み苦しむ人たちが私たちの周りにあふれています。そして、その苦しむ人たちをたすけたい、社会の役に立ちたいと思うようぼくも大勢います。

「発達障害って何？」

「認知症の人にどう接したら良いですか？」

「どこでカウンセリングの技法を学べますか？」

などなど、ようぼくのニーズも高まりつつあります。

「おちばでの、ひのきしんスクールを受講してみては…」と、声をかけても、「遠方からだと大変だ」「そんなに時間がとれない」など、受講したくても断念してしまうことが多いようです。

「それなら地方で開催すれば良いじゃない…」との思いから、各地で講座が開催されています。



栃木教区の取り組み

栃木教区では、平成 18 年から、布教部が中心となり、ひのきしんスクール専門コースを毎年開催しています。教区内の多くの人の要望に応え、数名のスタッフの協力を得て、比較的スムーズに第 1 回の専門コース『カウンセリング初級』を開催することができました。

結果は、35 名の参加者があり、みなさん大喜び！



「来年もお願いします」「次回は何…？」との大反響に応え、アンケートをとって受講者のニーズに合わせて開催しています。

これまで、うつ病・カウンセリング・ひきこもり・発達障害・認知症など、専門的な知識を学ぶとともに、実際におたすけをされている方々の体験談を通して、自分にできるひのきしん、自分にできるおたすけを見つけることができ、多くのようばくに喜ばれています。

栃木教区布教部長 老沼 康

VOICE

「ひのきしんスクールって何なのかな？ 『ひのきしん』と名が付くのだから何か役に立つことなのだろう」と思い、以前おぢばで一度受講しました。

その後、天理時報などで、いろいろな『ひのきしんスクール』の紹介を見ていましたが、結婚・出産・子育て……と、家を空けておぢばへ帰ることができず諦めていました。

そんな中、3年前にひのきしんスクール専門コース『うつ病』が教務支庁で開催されることを知り、「教区でなら、子供が学校に行っている間に受講できる」と思い、すぐに申し込みました。

図らずも、その4～5ヵ月前から私は突然、精神的に不安定な症状に陥っていました。精神科医である講師が、お話の中で『うつ病』について説明されているのを聞きながら、「これって、うつ病かも……」と思い、その後すぐに受診し、治療に入ることができたのです。この『ひのきしんスクール』は、私のために親神様が用意してくださったのではないかな、と思ったくらいです。

(40歳代女性)

VOICE

今年も『心の病』がテーマであり、とても身近に感じることができました。

知り合いの女性が心身症になり、何とか修養科へ入っていただきたいと思っていたときでした。そんな折に講義を聴いて、心の病を持つ人は対人的な問題を抱えていることが多く、むやみに勧めると逆効果になる場合もあるというお話が心に残りました。また、「聞く」ではなく「聴く」ことの大切さなど対応の仕方も学びました。あのまま修養科を勧めるだけだったら、かえってその女性を苦しめる結果になっていたかもしれないと思っています。当事者の立場に立って、その人が少しでも陽気ぐらしに近づけるように一緒に考えて行くことが大切なのだと悟らせていただきました。

(40歳代女性)



道のヘルパーの会

■お道の信仰をもつ者がよりよい介護の実践を行うことを目的とし、ひのきしんスクールが開催していたホームヘルパー養成講習会の修了者が中心となって、平成14年1月26日に発足しました。「介護をしてほしいが、どうせならお道の人をお願いしたい」という願いをもつ方は大勢いらっしゃいます。こうした願いに応え、「お道の人の介護はお道の人間で行う」ことを、会員相互のネットワークを活かして実現しようというのがこの会のねらいです。会員は現在285名。ホームヘルパー有資格者や介護に携わる方ならどなたでも参加できます。ぜひあなたも、総会・講演会（年1回）、研修会（年2回）などを通して、介護のスキルアップ、親睦・交流、そして介護に携わる信仰者同士のネットワークを拡げてみませんか。



キッズネット天理

■平成21年2月25日、シンポジウム『発達障害がある子供への理解と支援』の開催を機に、発達障害をはじめ不登校やいじめなど、子供のさまざまな身上や事情を抱える教会長・ようばくのネットワークとして発足しました。自らの子供に何かあったとき、強い信仰があっても、ふと途方に暮れる瞬間がないとは限りません。そんな時、同じ悩みを持つ親や、おたすけに関わる者が、出会い、それぞれの経験を通して話し合うことは、大きな心の支えとなります。

年2回の公開講座、年6回の茶話会、こどもおぢばがえり『キッズネット天理隊』などを通して、あなたも世界だけを展開するネットワークに参加しませんか。



天理ファミリーネットワーク

■教内心理臨床家の参加協力を得て、「ひきこもり」「うつ病」に悩む家族とおたすけに携わる人を支援する催しを、年3～4回程度、親里で開催しています。

【ひきこもりを考える親の集い】平成13年に親里で開かれた「ひきこもり」に関するフォーラムの参加者から寄せられた、「同じ悩みを抱える家族や、おたすけにかかわる人同士の談じ合いの場が欲しい」との声を受けて、翌年から年に4回ほど開いてきたものです。

【「うつ病」家族とおたすけに携わる人のサポートを目指すセミナー】「どんな病気か、どう関わったらよいか、同じ信仰をもつ同士で学び合い、語り合える場が欲しい」との声を受けて、平成23年から開催。春に専門家による公開講座を開催し、その後3回ほど、学びと語り合いの場をもっています。



ひのきしんスクール

『ひのきしんスクールガイドブック』（WEB 版）

立教 178 年 9 月 5 日

● 編集／天理教布教部社会福祉課（ひのきしんスクール事務局）

ホームページ： <https://fukyo.tenrikyo.or.jp/h-sc/>

〒 632-8501 奈良県天理市三島町 1-1 天理教布教部社会福祉課
TEL 0743-63-2314（直通）内線 5338（ひのきしんスクール事務局）



